SCK® NEWS vol.17

Livedo Medical
株式会社リブドゥコーポレーション

≪メディカル営業本部≫
〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル16F
TEL.03-5338-5155（代）
http://www.livedo.jp

発行日：2017年（平成29年）10月25日
発　行：メディカル営業本部

医療現場の組織運営を担う
認定看護管理者3000人を超える

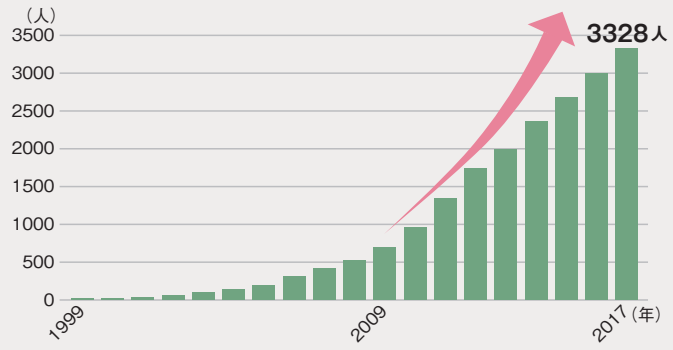
公益社団法人日本看護協会は、2017年第21回認定看護管理者認定審査にて、新たに454人の合格者を輩出し、総数3，328人になったことを報告した。

患者中心の組織マネジメントや地域包括ケアシステムの実現に向け、自身が所属する施設だけでなく、地域全体の医療・看護の質向上に取り組むなど、幅広い現場での活躍が期待されている認定看護管理者は、今年で制度発足20年を迎え、2009年から飛躍的に資格取得者が増加している。

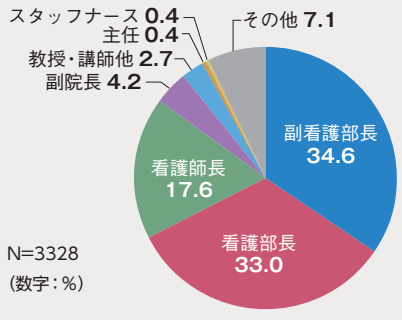
近年では、公立病院や医療法人など地域に根付いた中規模施設で資格取得に対するニーズが高まっていることがうかがえ、資格者の所属先を病床規模別でみると、300～399床（426人）が最も多い中、100～149床（201人）および150～199床（308人）の医療機関の所属者は5年前と比較し2倍以上に増加している。病院設置主体別にみると、公立法人・都道府県・市町村（652人）と、医療法人（627人）で総数の45％占めている。

ちなみに、病院設置主体毎の資格者在籍率では、上位から国立大学法人（91・9％）、日本赤十字社（90・2％）、独立行政法人地域医療機能推進機構（80・7％）の順となっており、職位別では、副看護部長（34・6％）、看護部長（33・0％）、看護師長（17・6％）、その他（14・8％）の割合であった。看護部門のマネジメントにとどまらず、多職種チームのマネジメントや地域を支える複数施設間での医療マネジメントなど、様々な医療現場で実践的な組織運営を担える人財が日本各地で必要とされているようだ。（畑山）

認定者数の推移



認定看護管理者の職位の割合



愛知県看護協会会長
認定看護管理者

インタビューリレー〈第11回〉

あらゆる職種が一丸となって、患者さんのサポートを考えることが大事です

鈴木 正子氏

【プロフィール】
愛知県看護協会会長
元 刈谷豊田総合病院
看護部長
助産師、認定看護管理者

―月並みですが、看護師を目ざしたきっかけは何ですか？

まだ日本全体が裕福とはいえない時代でしたから、寮が完備され奨学金が充実した看護師への道は、受験生にはとても手厚い進学先でした。動機は純粋に、お金がかからないからこれは素敵だなと。（笑）それでも、これだけ長く続けてこられたのは、やっぱり私の性分に合っていたのだと思います。

―刈谷豊田総合病院の生え抜きとおうかがいしました。

看護協会会長職のお話をいただくまで、ずっと同病院で勤めてきました。入職当時は、決して一流の病院というわけではありませんでしたが、特にトヨタ系列会社で社長を務めておられた豊田芳年氏が理事長に就任してからは、加速度的に総合病院として体質強化を図る経営戦略へと変化していった実感があります。

マナー研修から始まり、病院機能評価の認定審査やISO認証取得など、最初は何故このような取り組みを始めるのかさっぱり意図がわかりませんでした。それでも、5S活動からコツコツと始まり、常に患者さん中心の医療に向けて職員の理解が深まっていきました。

常に成長を求められる風土で、病院の成長と共に私自身も自然とマネジメント力が身についたように思います。

―経営判断も早いのでしょうね。

長らく手術を待たせている患者さんがいたことがありました。経営会議で事務方から即、指摘が入りましたね。徹底的に原因が追究され、すぐに運用面などで対策が講じられました。

年度の経費予算を守ることも大事ですが、環境変化への対応はもっと重要視されます。Dog Yearというのでしょうか、最新の取組みを一刻でも早く！というスピード重視の経営感覚は企業色が強いですね。

―同院は、いつも工事をされているイメージがあります。

その通りです。患者さんやご利用者の方にご不便をおかけしていますし、早く工事が終わってくれないかなぁと思いますよね。しかし、前院長が「いつも建築の音が聞こえるということは、いつも病院の発展の音がする、ということ。職員の皆さんはぜひ当院で働くことのモチベーションにつなげて欲しい」と語られ、なるほどと納得しました。以来、いつもどこかで改良・改善が実施されている証だと誇りに思っていました。

―患者満足を向上するうえで大切なことを教えてください。

いくら良いアメニティを揃えても、良い診断を受け、治療を受け、看護を受けたとしても、病院を出るときの最後に会計窓口の態度が悪かったら病院の評価は台なしです。職員が一丸となって患者さんに思いを巡らせ、自発的に行動を起こせるよう、することが大事です。

今でも定期的に古巣を訪れる機会がありますが、人財の育成に緩みがないか、ついチェックをしてしまいます。（笑）例えば、貼り紙や床の誘導線など、貼るだけで説明したつもり、解ってもらえるはずと思い込み、丁寧な案内を怠りがちです。職種を問わず、誰もが患者さんそれぞれに適したホスピタリティを発揮するには根気強い指導が必要ですね。

―看護協会の要職は、まだ女性が多いですね。

男性看護師が増えたといっても、総数160万人のまだ6％にとどまります。とはいえ10万人弱もの人数ですから、看護の現場に新しい風を吹き込んでくれています。各都道府県の看護協会で男性会長の誕生はそう遠くないと思いますよ。今まで女性看護師は、結婚や出産による仕事の中断に甘える傾向がありましたが、もっと意欲的にキャリアアップを図って欲しい。能動的な働き方と人生の充実を両立させて、多くの看護師が輝き続けて欲しいですね。（聞き手：陶守）

このあたりアンケート

第７回

『好きな手術看護業務』

専門紙にも載っていない、普段疑問に思っていても今さら聞けない…そんな「このあたり、手術室ではどうなってるの？」という疑問にお答えする独自のアンケート企画。

今回は「あなたの好きな手術看護業務」について、日本手術看護学会各地区学会に来場された手術室看護師の中から、約５００名の方に回答をいただいた。

好きな業務として、「器械出し（直接介助）看護」が過半数を占め、次いで「外回り（間接介助）看護」という結果となった。地域差もあまり見られず、器械出しの人気が約６割、外回りの人気が約２割、術前術後訪問は１割に満たない地域が大半を占めた。一般的に看護師のやりがいにつながるといわれる「患者さんとのコミュニケーション」を伴う業務ではなく、手術室ならではの「多職種によるチーム連携」にやりがいを感じている看護師が多い結果に、独自の専門性を好んで追及している姿をうかがい知ることができた。

同時に「手術看護分野認定看護師になりたいか」について質問し、全国各地でいずれも約２割の方が「なりたい！」「既になっている！」という回答に、地区学会来場者の意識の高さが分かった。しかし、「分からない」と答えた方も多く、大きな理由の一つとして、手術看護認定看護師教育機関が全国に３カ所と少ないこと（東京都・福井県・兵庫県）や勤務しながらの資格取得が非常に困難であることから、職場の協力が必要不可欠となることなどが考えられる。

最後に「手術室勤務は何年目か」についての質問では、「10年以上」との回答が最も多く、東海と関東甲信越では40％を超えている。一方で、四国では「1～6年目」が過半数を占めており、若手の方が積極的に参加した学会であったようだ。各地区では毎年プログラムを工夫し、来場者の様々な課題や悩みに向き合っている。（武田）

図１　あなたの好きな手術看護業務は？

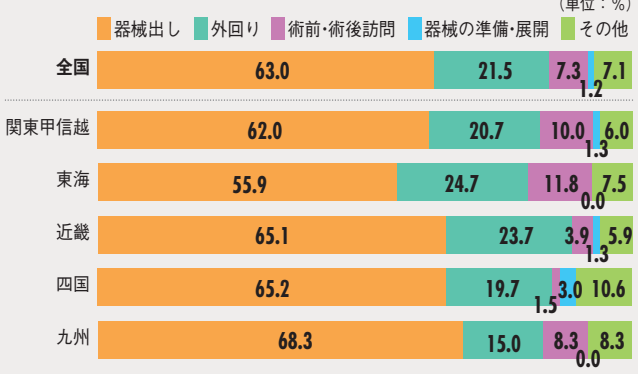


図２　手術看護分野認定看護師になりたいですか？

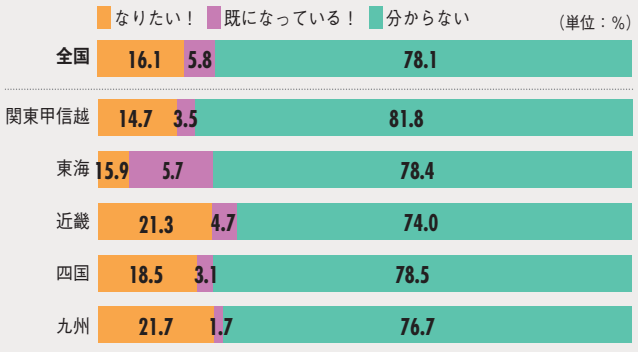
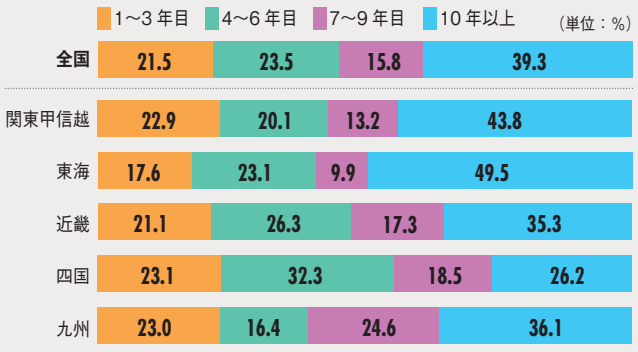


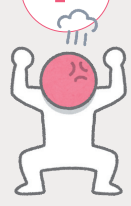
図３　手術室勤務何年目ですか？



今話題のアンガーマネジメント

自分の怒りの感情と向き合う「アンガーマネジメント」が注目を浴びている。

アンガーマネジメントとは、衝動的なイライラや怒り（アンガー）の感情と上手く付き合うことを目的とした心理教育のプログラムの１つであり、１９７０年代のアメリカで、当初は家庭内暴力（ＤＶ）や軽犯罪者への矯正のために開発された。単に感情を抑え込むのではなく、その怒りの根本原因を探り自分に合ったコントロール方法が習得できる。代表的なスキルとして「６秒ルール」というものがある。怒りの感情が持続するのは最大６秒間と言われており、この間に怒りから意識を離すことで、冷静な判断ができる状態に戻れるそうだ。



２００１年アメリカ同時多発テロ以降、社会不安の高まりから一般にも普及し、医療現場においても、価値観や手法等の違いによる衝突を減らし良好なチームワークを築いたり、患者さんへの接遇力が向上できると期待されている。

さて、第59回日本手術看護学会東海地区学会・総会（２０１７年９月30日（土）会場：ウインクあいち）では、一般社団法人アンガーマネジメント協会認定ファシリテーターの武井美智子先生を講師にお招きし、当社共催セミナー「アンガーマネジメント講座」を開催した。講師による解説に加え、参加者同士でのグループワークを実施し、各々に合ったマネジメント方法を発見した。参加者からは「怒りについて初めて考えた」「業務に活かしていきたい」「怒りを伝染させずに解消できそう」といった感想をいただき、セミナー終了後には皆さんの表情が一様に明るくなったように感じられた。（武田）

軽い尿モレ、要注意！

出産や加齢による骨盤底筋のゆるみや、女性ホルモンの変化などで起こりやすくなる軽い尿モレ。笑ったときやくしゃみをしたときに不安を感じたことのある女性は、30代で約２割、40代で約３割、50代では約４割にものぼる。とはいえ大げさな紙おむつや、いかにも厚ぼったい尿ケア商品を手に取るには抵抗感があるのも事実だ。

そこで注目して欲しいのが超うす型の尿ケア専用品「リフレ超うす安心パッド」。少しの尿モレなら生理用ナプキンやライナーで大丈夫、と思わないで欲しい。吸収体の構造が全く異なり、保水力や消臭力など専用品ならではの性能が備わっている。気軽に手に取って、お出かけやスポーツのお供にして欲しい。（高木）

つけ心地軽やか、
アウターへもひびきにくく、
携帯のしやすさも抜群

「リフレ超うす安心パッド」なら吸収量別に充実の８ラインナップ

『編集後記』

ご多分にもれず……。

軽い尿モレの記事を書きながら、私自身の経験も思い出しました。

忘れもしない、親族が集った数年前のクリスマス会。一通りのイベントも終わり部屋遊びに飽きてきた子供たちが、外で縄跳びを始めました。楽しそうに二重飛びの競い合いをしている姿に、つい、昔得意だった勇姿を見せようとしたのが間違いでした。コートも着ずに軽装でジャンプした瞬間、「あー」という不安が的中したのでした。

以前に紙おむつ事業で軽失禁の商品を担当していましたので知識はありましたが、いざ自分が経験するとやはりショックは大きいものです。自身の病気や家族の闘病、介護や認知症…知識だけでは知りえない心の持ちようも、しっかり学んでいきたいと思います。

編集長　陶守久美子

LivedoTopics

２０１７年１０月１日、㈱リブドゥコーポレーションは、「滅菌ポケットＬ」を新発売いたしました。本製品はラパロ鉗子等が収納できる筒状ポケットで、器具の出し入れや交換をスムーズに行えます。また、布鉗子等で挟みやすい形状のため、ドレープへの固定に適しています。詳細をご希望のお客様は弊社営業員にお問い合わせください。

滅菌ポケットＬ
ラパロ鉗子等が収納できる筒状ポケット